

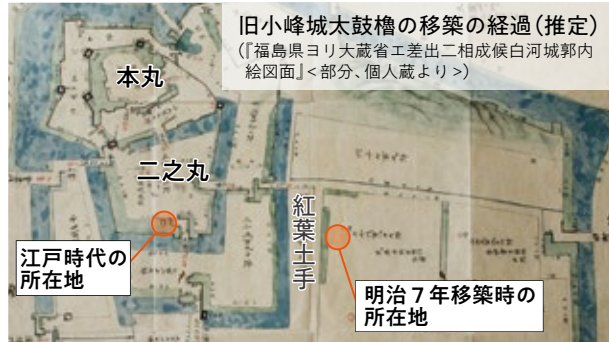
旧小峰城太鼓櫓とは

旧小峰城太鼓櫓は、小峰城に関わる建造物が江戸時代末から明治初期にすべて焼失・破却等により失われている中で、唯一現存する貴重な建造物として、昭和39年(1964)市の重要文化財(建造物)に指定されています。

旧小峰城太鼓櫓の変遷

もとは城内二之丸の太鼓門西側にあったと考えられ、古文書や一部の城絵図に記録が残っています。その後、明治7年(1874)に白河で商家(山城屋)を営んでいた荒井家が払い下げを受けて旧三之丸の紅葉土手東側に移築し、昭和5年(1930)に現敷地内に再移築されました。

市では、旧小峰城太鼓櫓の老朽化等のため令和2年10月から令和4年7月にかけて解体修理を行い、同敷地内南側へ移築しました。



旧小峰城太鼓櫓の移築の経過(推定)
(「福島県ヨリ大蔵省工差出二相成候白河城郭内絵図面」<部分、個人蔵より>)

江戸時代の所在地

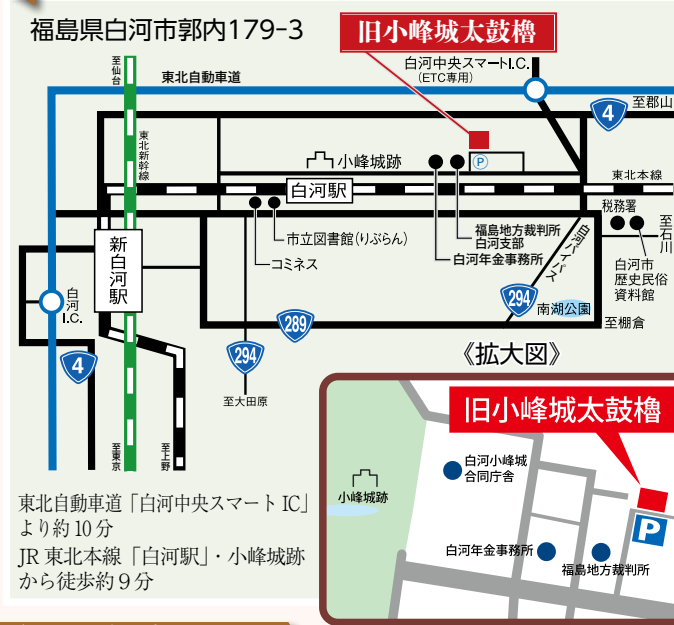
紅葉土手

明治7年移築時の所在地

旧小峰城太鼓櫓略年表

江戸時代	小峰城内太鼓門西側付近に所在
明治7年(1874)	旧三之丸紅葉土手に移築
昭和5年(1930)	郭内(現敷地北側)へ移築
昭和39年(1964)	市重要文化財(建造物)指定
平成26年(2014)	敷地が国史跡の一部に指定
平成27年(2015)	建物が市に寄贈される
平成29年(2017)	市の歴史的風致形成建造物に指定
令和2年(2020)	移築修復工事着手
令和4年(2022)	移築修復工事完了

アクセス



利用案内

《見学》 無料

- ◆ 外観はいつでもご見学いただけます。
- ◆ 内部一般公開日は市ホームページ等にてご案内します。
- ◆ 貸館時(使用日)は、見学をお断りする場合があります。

《貸館》 有料

- ◆ 貸出時間: 8時から20時まで
- ◆ 使用料金: 1時間あたり200円
- ※利用者が参加者から料金を徴収する場合は、2倍の額になります。
- ※事前の申請が必要です。
- ※近接する休憩棟(トイレ含む)もご利用いただけます。
- ※年末年始(12/28~1/4)閉館

ご見学について

駐車場は、近接する旧小峰城太鼓櫓専用駐車場をご利用ください。敷地内は禁煙です。

お問い合わせ

白河市建設部文化財課
〒961-8602 福島県白河市八幡小路7-1
TEL:0248-22-1111(内線2231) FAX:0248-24-1854
<https://www.city.shirakawa.fukushima.jp/>

白河市指定重要文化財(建造物)
きゅうこみねじょうたいこやぐら
旧小峰城太鼓櫓

Municipally designated important
cultural property of Shirakawa City
Former Taikoyagura Turret
of Kominejo Castle



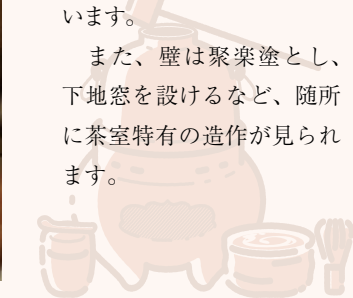
1 階



茶室としての設え

入口は落天井、和室は杉皮あるいは檜皮を用いた平天井、広縁部分は垂木(竹)に藤蔓を巻くなどの趣向を凝らした化粧屋根裏天井となっています。

また、壁は聚楽塗とし、下地窓を設けるなど、随所に茶室特有の造作が見られます。



2 階 ※非公開

昭和5年(1930)から戦中頃は、2階で地域の名士を集めて月見の茶会を開催していたと伝わります。

また、丸窓は明治時代の紅葉土手に所在したところからの形状であることが古写真から分かっています。



階段 ※非公開

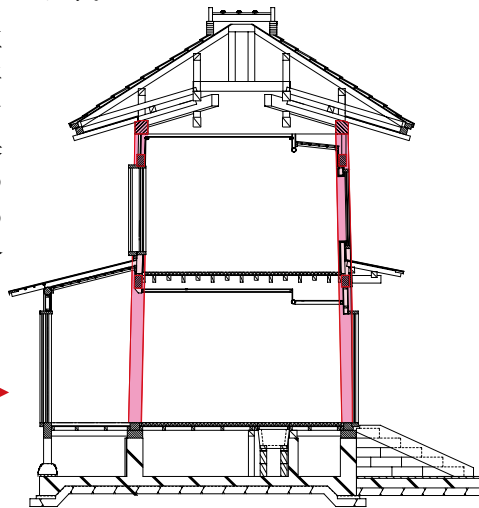
現在は急勾配で1階への降口が長方形の階段ですが、解体工事に確認された根太の痕跡から、かつての降口は現在よりもかなり狭く、造りが異なっていたことが確認されました。



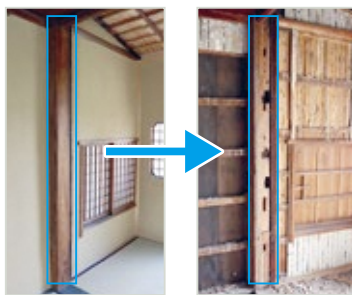
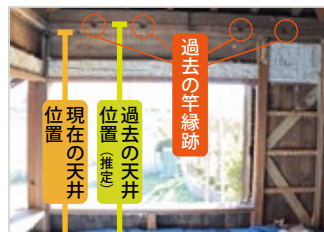
江戸時代の部材

令和の移築修復工事に伴い実施した年代測定(ウィグルマツチング法)の結果から、柱や桁などの部材は、江戸時代のものであることが分かりました。

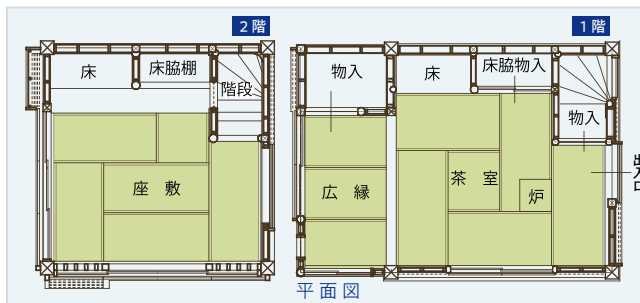
江戸時代のものと
考えられる部材
||
赤色箇所



移築修復工事では、江戸時代の部材とされる柱等にかつての加工痕(ほぞ穴等)を確認することができ、過去の形状を推測することができました。



柱無目(柱に被せた薄い板状のもの)を撤去したところ、過去の加工痕(ほぞ穴)が確認されました。



檣の役割

旧太鼓檣の機能について明確なことは分かっていませんが、他の城郭の太鼓門では、藩士の登城合図などに使用する太鼓を置いた例があることから、小峰城でも同様の可能性が考えられます。

建築当初の太鼓檣

大正年間の写真や移築修復工事による調査などから、建物の原型は重層で、四方に転び(柱などの材を傾げる作り方)をもつ2間四方の寄棟造りであったと推定できます。現在みられる1階の庇や広縁部分、茶室としての内装などは、払い下げ後に数度にわたり増築・改修されたものです。



紅葉土手時代の様子
(大正~昭和初期頃、「白河市史」三より)

茶室として使用された檣

紅葉土手時代、払い下げ後の旧三之丸を開墾するにあたり、開墾作業者の物見檣として使用したとされる旧太鼓檣は、昭和初期の耕地整理のため、現敷地内北側に移築されます。

この移築の際、白河茶道連盟の初代会長で旧所有者の荒井家10代当主荒井治右衛門は、旧太鼓檣を含む荒井家の別荘を建て、これらを「楽山荘」と名付け茶会を催すなど、旧太鼓檣は近代以降の白河の茶道文化の拠点となりました。